

平成18年度 工芸科学部 学位記授与式
学長告辞

本日、ここに学士の称号を得て卒業を迎えられた七百一名の皆さんに対し、京都工芸繊維大学を代表して心からお祝いを申し上げます。また、この日に至るまで長い間にわたって皆さんの勉学を支えてこられたご家族および関係者の方々のご労苦に対して深い敬意を表します。

皆さんは、本学の教育課程で研鑽を積み、輝かしい成果を挙げ、本日目出度く卒業式を迎えられました。本日は、皆さんが過ごしてきた大学生活を振り返る日でもあります。自らが興味を持った専門について深く学び、友人、先輩、後輩との思い出深い時を過ごし、そして、多くの先達から指導を受けたことなど、本学での学生生活をじっくり吟味するのは、今日をおいて他にはありません。また、皆さんは、ご家族をはじめ多くの人々のご支援によって今日を迎えることが出来たことと思います。今日は、そのご恩を振り返り、感謝する日でもあります。

皆さんは、本学で得た知識と経験を糧に、明日から新しい世界へ船出されることになります。そして、企業での業務、あるいは物作り、また大学での研究等、様々な形で仕事に従事され、社会的自己実現を果たすことになります。小学校から大学までの教育は、この社会的自己実現に向けての準備であったわけです。この意味で、大学の卒業は、皆さんの人生の中でも大きな節目となる出来事でもあります。

皆さんを待ち受ける現在の社会の状況は、決して明るいものばかりではありません。環境破壊、地球温暖化、格差、少子高齢化、ワーキングプアなど、課題山積の社会です。多くの人々が漠然とした不安の中で、日々の活動を行っている社会です。このような社会に船出される皆さんは、今まで経験したことがないような困難な課題にも遭遇すると思います。

そのような皆さんに、「知性」ということについて一言申し上げたいと思います。

人間は、考える葦であると言われるように、優れた知的能力を持つ存在です。この知的能力は、二つに分けることができます。

一つは、知能（Intelligence）で、他の一つは知性（Intellect）です。

知能は、現実の生活や仕事の場面で遭遇する課題を理知的に処理する能力のことです。環境からの刺激を認知し、過去の経験を生かしつつ、施行し、判断して、直面する課題を解決するための一連の心的活動の事です。知能は、知能検査法によって測定できるものです。

これに対して、知性とは現実を超えて観念的処理を行う理知的な活動で、過去に経験したことがないような新しい状況のなかで、個人的・社会的価値を創出する能力です。知性を測定する方法は今のところはまだありません。

知能は、現実的で具体的に定義される課題を解決する能力ですので、これを、例えばプログラムに置き換えてロボットによって実現することが可能です。しかし、知性は部分的にしか解明されていませんので、人工「知性」としてこれを実現できるかどうかはまだわかりません。

心理学者のギルフォードは、知性をモデル化した人ですが、知性の中でももっとも重要な要素であると考えられる創造性について検討しております。

ギルフォードによれば、創造性は、まだ経験したことがない新しい状況の中で、過去の経験を生かしつつ、しかしそれにとらわれることなく、新しい問題群をつくり、それらを解決し、既存の枠を超えるような世界を実現する能力です。これまで、人類が様々な困難を乗り越え、飛躍的に科学技術を進展させることができたのは、この創造性によるものです。蒸気機関車、無線、飛行機、コンピューター、宇宙衛星など輝かしい発明は、それまでの世界を一変させる革命的なものでありましたが、これらの発明は、優れた創造性によって初めて成し得たものです。

本日学士の称号を取得された皆さんの活動は、これまでは、主に与えられた課題についての勉学で、如何に知能を発揮するに関するものであったと思います。皆さんが獲得されたこの知能は、現実的かつ具体的な問題を解決するためには、有効に働くと思います。

しかし、経験したことの少ないような状況では、その有効性を発揮できない可能性があります。体験したことがないような新たな状況での課題を克服するには、高い創造性が必要であり、このためには、創造性の涵養が不可欠です。

ギルフォードは、創造性を構成する因子として六つの項目を挙げています。一つは問題に対する敏感さ、二つ目は連想・言葉・表現・観念の流暢性、三つ目は非凡性とたくみさを含む独創性、四つ目は適応の柔軟性、五つ目は綿密性、六つ目は体験したことの少ない新しい物事、事象について定義ができる能力です。

仕事であれ、研究であれ、日常的に行なうことの多くは、繰り返してあり、単純作業です。創造性を涵養するためには、物事をただそのまま見ているだけでなく、それが如何にしてそうなったのか、なぜそうなのかを深く観察することが重要です。そうすることによって、多くの人が見過ごしている問題の本質を見極めることが可能となります。如何にそのようになったのかを考えることは、情報・知識を流暢に使うことが必要になります。また、その物事はなぜそうなのかを考えるとき、柔軟な適応性と綿密性が必要になります。日々の生活のなかで遭遇する物事に対して、その根源を探究するためのこのような努力と想像力を発揮することが、新たな価値の創造に、そして創造性の涵養につながるのです。

皆さんは、明日から新たな世界で活躍されることとなりますが、仕事の場面では、喜びよりもむしろ様々な困難や失望などを経験されることが多いと思います。そのような時には、与えられた困難や苦しみに対して、それらの背景にある理由について、根源的に深く観察し、思索して頂きたいと思います。それが如何にしてそうなったのか、なぜそうなのかを深く探究することによって問題の本質が究明できれば、困難や苦しみを克服する方法が見つかると思います。

最後に、皆さん一人一人が、今まで培ってきた能力のさらなる向上と創造性の涵養に努められ、新しい希望に満ちた社会の実現のために貢献されることを願って、私のお祝いの言葉と致します。

本日は、学士の取得、まことにおめでとうございます。

平成19年3月26日
京都工芸繊維大学長
江島義道